

第 24 期第 2 回科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会議事録（案）

日時：2018 年 2 月 20 日 14 時から 16 時

場所：日本学術会議 5-A1 会議室

出席者（敬称略）：大矢根綾子，井伊雅子，小澤 徹，亀田達也，駒井章治，藤井良一，古谷研，松尾由賀利，渡辺芳人

欠席者（敬称略）：大山耕輔，梶田隆章，武田洋幸，丹下 健，

事務局（敬称略）：桑川参事官、大橋参事官付、大澤参事官付

最初に今回から分科会に加わられた大矢根綾子委員の自己紹介があった。

議題 1 前回議事録の確認

研計 24-2-1a を基に、前回の第 1 回の分科会の議事の概要の確認を行うとともに、研計 24-2-1b により第 2 回科学者委員会で、大型研究計画の策定を行うという分科会の方針と出来る限り速やかに学術会議内外に周知することを報告したことの説明があった。

議題 2 大型研究計画マスタープラン策定に関わる課題の整理と今後のスケジュール

最初に、前回分科会で検討された、第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2020）を策定することを分科会として正式決定を審議することとした。

研計 24-2-2a を基にマスタープラン 2020 策定に関わる課題の案が紹介された。

大型研究計画の分類

大型施設計画と大規模研究計画という前回の枠組みでよいかという課題について、事前に渡辺副会長から頂いた質問「大型だけに限定するのか、大型だけでなく内容の重要度を検討する必要があるのではないか」を委員に紹介し、この観点も含めて議論を行うこととした。主たる議論は以下のようであった。

- ・ 大型研究計画に求められる学術としての重要性及び分野の骨格を成す計画という観点からみて、分野により大型研究計画の規模や有り様は異なる。現在の大型研究計画の定義の一つに数十億円より大きな規模とされているが、新学術領域（5 年 × 3 億円以下）や特別推進（5 億円以下）よりは大きく大型研究計画より小さい規模の研究計画で、十分学術の発展を促進することができる学術分野もある。
- ・ 大型の規模を満たすために、幾つかの関連する計画を合体させるなど、学術の健全な発展にとり好ましくないケースも散見されたように思われる。
- ・ 一方で、分野によっては一つ一つは大型研究計画の規模ではなくても、複数集めることにより、多くの研究者を結集させるより総合的で学術的価値の高い魅力的な計画（大規模研究計画）を策定できるところもあり、学術の発展に寄与することが可能である。金額だけでなく、課題の広がりや参加人数も重要な要素。
- ・ この点の方策の方向性として、分野の違いを取り込めるように大型研究計画の範囲を柔軟に変更するか、新たに中規模の研究計画の枠組みをつくるか？

- ・ 大型研究計画は各々 10 年以上の長期の計画であり、また文科省も対応するロードマップを現在の定義で継続的につくってきているので、現在の枠組みを 10 年以上の長期に渡り継続することが必要ではないか？
- ・ 現在の大型研究計画の予算の下限は数 10 億円で、実質的に 10 億円程度まで申請可能なので、分野において学術的に重要性の高い研究課題を申請するよう積極的に働きかける、(公募の要項等で記す等) ことも可能ではないか？
- ・ ある程度定着してきている現在の大型研究計画はそのまま残し、中規模研究計画の枠組みは別途検討した方が良いのではないか？

これらの議論を基に、大型研究計画は現在のままとし、規模等を柔軟にするか、中規模研究計画の枠組みを作る努力をするか、については今後検討を続けることとした。

今回の改訂のステータス (大改訂か?)

主たる議論は以下のものであった。

- ・ 大改訂では、方式や枠組みや対象(上記の議論参照)等も変えることを意図しているのか？
- ・ 大改訂の意味は、マスタープラン開始から 10 年経過するので、長時間経過した計画は大幅に見直すなどリセットし、更に新たな大型研究計画を策定していくことではないか？
- ・ ESFRI では大型研究計画と同様に 30 程度のテーマを選んでいるが、10 年経過した未実施の計画は終了か大幅な改訂を伴う出し直しを条件としている。ただし、ESFRI の場合はほとんどの課題が実施に移されているため、未実施課題の多い日本の場合に同様の時限が適用できるかは疑問。

これらの議論を基に、大改訂の意味として、後者を主とすることとし、過去の大型研究計画や重点大型研究計画の扱いについては今後検討していくこととした。

アンケートの実施

融合領域を含む研究領域の設定や評価のあり方、過去の課題の扱い等々、(分野別委員会?、各部会?、学協会?、研究機関?に対し) アンケートを行い、策定の方針等を決定していくこととした。具体的なアンケート内容については今後検討する。また、今回は会員と連携会員のみアンケートしたが、学協会等へもアンケートするかについては今後検討する。

前期分科会での議論

様々な課題の洗い出しと検討を進める上で、前期の分科会での議論等が大変重要である。前期委員長の相原博昭先生に次回分科会に来て頂き、ご教示いただくこととする。(現在日程調整中)

方針の策定および公募等のタイムスケジュール

研計 24-2-2c と研計 24-2-2d の案を基に検討をおこなった。

前期と比較して3ヶ月前倒しで分科会を開始しているので、

- ・ 11月前後に策定方針の公表
- ・ 来年2月頃に公募開始

が可能であると判断し、2月下旬に大型研究計画策定の実施決定と学術会議内外への周知を行うこととした。

マスタープラン 2020 策定に関わる周知文案

研計 24-2-2e の案を基に文書の確定を行った。

検討等について文中で述べるとかえって混乱を招くので、マスタープラン 2020 策定を実施することのみを、上記の策定方針の公表時期と公募開始時期と合わせてお知らせすることとした。周知文は下記に。(2月22日の幹事会で承認され、2月23日の学術会議メールニュース No. 625 で配信された)

次回の分科会

3月(あるいは4月)に、前期委員長相原先生をお招きして開催する。

(以上文責：藤井、井伊)

<参考>

周知文

会員・連携会員、学協会、研究機関各位

日本学術会議科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会は第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン2020)を策定することを決定いたしました。大型施設計画や大規模研究計画等の大型研究計画を提案される方々により長い準備期間を持って頂くために、現時点でまず実施することのみをお知らせいたします。マスタープラン策定の方針や公募要項については今後分科会で検討し、本年11月前後に皆様にお知らせする予定です。また公募は2019年2月頃に開始する予定です。

2018年2月22日

日本学術会議科学者委員会

研究計画・研究資金検討分科会